学校番号	１０１０

令和５年度　国語科

教科	国語科	科目	古典Ｂ	単位数	２	年次	３
使用教科書	精選古典Ｂ新版（東京書籍）						
副教材等	「完全マスター古典文法」（第一学習社） 「常用国語便覧」（浜島書店）						

１ 担当者からのメッセージ

・古典の基本的な知識を元に古典作品を読み解く楽しみを感じましょう。
・有名な古文と漢文の作品に親しむとともに、正しく心情等を理解するために語彙力や文法の知識をしっかりと身に付けてください。
・予習として必ず本文を読んでおきましょう。授業の後には内容を振り返って復習してください。
・提出物の期限は守りましょう。定期考査は学習計画を立てて臨んでください。

２ 学習の到達目標

古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。

３ 学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a：関心・意欲・態度	b：読む能力	c．知識・理解
観点の趣旨	古典を読む力を高め、作品の価値について自ら考察するとともに、我が国の文化の特質や中国の文化との関係について理解を深めようとする。	古典を読んで、内容及び思想や感情を、構成や展開に即して的確に捉え、ものの見方・感じ方・考え方を豊かにしようとする。	古典の理解に役立てるため、語句の意味、用法、文の構造、文法、音声、表記等を理解し、知識を身に付けている。
主たる評価	行動の観察 記述の点検 （ノート、ワークシート等）	行動の観察 記述の確認 （発表等のパフォーマンスの評価）	行動の観察 記述の確認 （ノート、ワークシート等） 定期考査 小テスト

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点			単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c		
一学期	説話	十訓抄 成方といふ笛吹き	○	◎	○	a 内容を踏まえて当時の文化や考え方を理解し、自身の考え方を深めようとしている。 b 物語の展開から登場人物の機転や当時の文化の変遷等を読み取っている。 c 形のうえで紛らわしい語を文法的に識別できている。	a行動の観察 b行動の分析及び記述の確認及び定期考査 c記述の点検及び定期考査
	日記	紫式部日記 女郎花	○	◎	○	a 内容を理解するとともに、紫式部や藤原道長に関わるサロンについてを含む文化の理解。 b 人物の心情を、それぞれの場面に応じて読み取っている。 c 基本的な助動詞について理解している。	a行動の観察 b行動の分析及び記述の確認及び定期考査 c記述の点検及び定期考査
二学期	物語	源氏物語 車争ひ	○	◎	○	a 物語の内容を理解するとともに、『源氏物語』についてより深く知ろうとしている。 b 登場人物の心情を、それぞれの場面に応じて読み取っている。 c 基本的な敬語法について理解している。	a行動の観察 b行動の分析及び記述の確認及び定期考査 c記述の点検及び定期考査
	物語	落窪物語 姫君の苦難	○	◎	○	a 登場人物の境遇を読み取るとともに、平安時代の物語の特徴を理解しようとしている。 b 登場人物の人間関係や心情を読み取っている。 c 基本的な敬語法、副詞、助動詞について理解している。	a行動の観察 b行動の分析及び記述の確認及び定期考査 c記述の点検及び定期考査
	漢詩	小話 近体詩	○	◎	○	a 漢文に描かれた人物や情景・心情などを表現に即して味わおうとしている。 b それぞれの漢詩が表現している内容や情感を理解している。 c 漢詩の詩形や押韻などについて理解している。	a行動の観察 b行動の分析及び記述の確認及び定期考査 c記述の点検及び定期考査
三学期	評論	源氏物語玉の小櫛 もののあはれの論	○	◎	○	a 物語は「もののあはれ」に本意があり、そこに独自の価値があるという考え方を理解しようとしている。 b 当時の最先端であった儒教の考え方を含む文化の理解。 c 形のうえで紛らわしい語を文法的に識別できている。	a行動の観察 b行動の分析及び記述の確認及び定期考査 c記述の点検及び定期考査
	近世の文学(物語	雨月物語 浅茅が宿	○	◎	○	a 内容を踏まえて人間の生き方についての考えを深めようとしている。 b 登場人物の置かれた状況やその心情を読み取っている。 c 形のうえで紛らわしい語を文法的に識別できている。	a行動の観察 b行動の分析及び記述の確認及び定期考査 c記述の点検及び定期考査